西部地区観光ボランティア連絡協議会 in 掛川　柴桂子さんのお話を聞きました

11月12日(火)、掛川の大日本報徳社を会場にして「令和6年度県西部観光ボランティアガイド連絡協議会研修会」が実施されました。浜松からは34名が参加しました。

午前中は、封建時代における女性史の第一人者柴桂子さんの講演会。私は2つの点で刺激をもらいました。

大日本報徳社講堂で講演される柴桂子さん

その第一は、柴さんという女性の生き方。柴さんは山口県出身、地元の企業に就職したが大学に行きたいという夢を捨てきれず29歳の時上京、働きながら大学を卒業。子育てが終わった50歳の時、自分がやりたかった女性史の研究のため京都の大学へ。一方で農業に対する関心も強く60歳で東京から掛川の畑に通い始めました。80歳になった時これからの人生を考え掛川に民家を買って移住。敷地にあった離れをリフォームして学び舎を作り地域の皆さんの集いの場とされました。「大学」「女性史」「農」と幾つもの夢を実現してきたバイタリティは87歳の今も健在で、会場でも熱弁をふるわれました。

第二の刺激は「江戸幕府250年の安定政権の礎は姫たちの頑張りで築かれた」という柴さんの主張。柴さんの資料によれば、「徳川将軍家の姫たちの嫁ぎ先を分析すると、初代家康は32名の実娘・実妹・養女を、2代秀忠は18名の実娘・養女を政略結婚で嫁がせており、婚家別でみると、家康、秀忠とも圧倒的に外様、次いで譜代が多い。婚姻の目的は①外様大名の統制、②譜代大名による幕藩体制強化（基礎固め）だが、将軍家に取って外様は危なくて恐ろしい存在だったに相違ない。そのような所に送り込まれた姫たちの精神状態はどんなだったか。家康の威光もあって幕府要人と直接会話できるという立場も使いながら健気に役目を果たしたと思う。このような姫たちの活躍があって長期政権の基礎が固まった」という柴さんの見解に首肯しました。

午後はAコース・Bコースに分かれての現地見学でした。その内容にも触れたかったのですが紙面の関係で割愛いたします。最後に、本研修を企画していただいた掛川ガイドの会の皆さん、浜松から参加してくださった会員の皆さんに心より感謝申し上げます。

副会長　小池孝幸

観光関係優良従業員表彰式

左から杉山淳一さん、齋藤博行さん、杉山啓子さん

11月25日(月)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー主催の令和6年度観光関係優良従業員表彰式が開催され、当会からは、14期生の齋藤博行さん(東ブロック)と杉山啓子さん・杉山淳一さん(西ブロック)の3名が表彰されました。

齋藤さんは受賞の感想を「健康で継続できたことが評価されうれしい、皆様の協力のお陰です」と語っていました。

広報部　伊藤英典(東ブロック)

会員の交流広場

もう一つの詩　「行進歌」

浜松に「行進歌」があるのをご存じでしょうか。旧浜松市歌と同様に、太正十年に森鴎外(林太郎)が作詞し、本居宣長の六代目の子孫である本居長世が作曲したものがあります。それを私は、三十年程前に知りました。その後ずっと気になっていました。今から十年位前に、文化財課の課長さんにお話して、譜面と歌詞カード等をコピーしていただきました。

今思うに、これは宝物です。途絶えさせてはいけないと思います。皆さまに知っていただいてぜひ歌っていただけたら幸いです。

そして、旧市歌（市制十周年を記念して大正十年作成)の歌詞も掲載させていただきました。

行　進　歌

1．駒引くは　めでたきためし
　曳馬とは　よき名ならずや
　その名をば　などてかへけむ
2．引くといふ　ことばをさへに
　まずらをの　いむべきものと
　おもへりし　昔しのばゆ
3．このこころ　いよよかためて
　もろともに　いざはかりてむ
　浜松の　いちのさかえを

市　歌

1．大宮人の　旅衣
　入りみだれけむ　萩原の
　昔つばらに　たずねつる
　翁をしのべ　書よまば
2．国の乱れを　しづむべき
　いさをのもとと　この里に
　城の礎　かためけむ
　人な忘れそ　銃とらば
3．引間のうまや　さまかえて
　よろづの業の　進なる
　いざもろともに　謀りてむ
　わが浜松の　市のさかえ

※戦後、旧浜松市の学校では市歌の２番を省略して歌った。

なお、Ａ４版の譜面と歌詞カードと静岡大学教授の児玉璋先生が解説されたコピー等もありますので、よろしかったらお申し出ください。お待ちしております。

中ブロック　鈴井あや子

会員の交流広場

地域のお寺に眠る古文書

浜松市南部の白羽町に「法蔵寺」というお寺がある。同級生のお宅でもあり中学校の同窓生が集まった折に寺の境内や本堂を見学させていただいた。市指定文化財の阿弥陀如来像は見ることはできなかったが、境内には、①吉良義堯(よしたか)公夫妻の墓石(正室は家康公の伯母法蔵院殿芳林春公大姉で今川氏輝と寿桂尼の娘といわれる)、②義堯の息子吉良義安(家康と共に人質として駿府にいた)を尋ねた菅沼定盈(さだみつ)が植えたとされる樹齢 450 年の大銀杏、本堂には③吉良公夫妻の位牌が祀られており、④「御届申上候由諸書之覚」の古文書も残る。

吉良義堯夫妻の墓

これは浜松藩寺社奉行宛の寺の由緒書きである。古文を読み解く力は持たないが、「吉良」「神君」「大献院様」「中泉御殿」「秀吉公」など、歴史上重要なキーワードが見て取れた。

そこで、中央図書館「古文書を読む支援をしてくれる企画」に由緒書を持参し読解していただくことにした。

そこでわかった古文書の大意は以下である。

「吉良氏との深い関係によって 320 石の寺領をもらっていたが、秀吉の時代に召し上げられた。代理の茶堂善阿弥に依頼し伏見まで（寺領安堵の）お願いに行ったところ、中泉御殿において神君家康様から寺領 50 石の書付を賜り、後に大献院様からも御朱印を頂戴した。７年に一度出府し、お礼を申し上げてきた」

翻訳をしてくださった坪井俊三先生によれば、「浜松は（足利将軍家御一家筆頭）吉良氏の領地であり、中世より寺がある白羽の地は、白羽湊（宗良親王上陸で有名）など水運の要衝でもあり、重要な場所であった（法蔵寺の前身天台宗「大日寺」の開基白羽町の清水家には天正期の貴重な古文書が残る)。少なくなったとはいえ江戸時代を通じて 50 石の寺領を安堵されていた寺はめったにない」とのことだった。

法蔵寺の大銀杏

同級生の家にこんな歴史があるとは驚きだった。寺に育った本人も自分の寺がどのような歴史背景の中で創建され、いかなる変遷を経て現在に至るかを知ることができ感慨深かったようだ。

南ブロック　馬渕　豊

会員の交流広場

第１期入会の佐々木敏子さんに話を伺いました

今回は、浜松観光ボランティアガイドの会の一期生として入会され現在も東ブロックで活躍されている佐々木敏子さんにお話を伺いましたので、その内容を少し紹介させていただきます。

筆者　これまで何度か一緒に活動させてもらっていますが、改めて出身は浜松でよろしいですか。それから子供時代の想い出や入会するまでについてお話を伺ってもよろしいですか？

佐々木　今は浜松って言ってるけど、舞阪で生まれ育ったの。随分昔のことだけど小学生の頃、舞阪駅前は空襲を受け、焼夷弾が大きな松の木の枝を打ち落としながら飛んで来たのが見えたの。なぜならそのすぐ先には日蓄コロンビア舞阪工場があったから。父親はそこに勤めていて部下の人も大勢いたから、私は必死に全員の無事を祈ったことを今でも鮮明に覚えているの。結婚して飯田町に住むようになり子供も３人育てたけど、調理師の仕事は定年になるまで続けたわ。

筆者　それではどんなきっかけで、一期生として入会することになったのですか？

佐々木　60 歳以上しか入学できなかった静岡県生涯大学西部葵学園というのがあって入校し、歴史課程を受講し単位も取得したの。その後、大勢の仲間たちと一緒に会の設立時に入会したの。

平成 13 年 11 月 26 日(月) 第 4 回研修旅行 青崩峠にて

筆者　話も尽きないのですが、最後に印象に残っている写真を頂けないでしょうか。

佐々木　そうね、まだ会ができて間もない頃にはいろんな所に行きたくさんの想い出があるけど、塩の道～青崩峠そして高根城を訪ねた時の写真にするわ。だってまだ若くて写真もきれいだから。

筆者　大変ありがとうございました。これからもご活躍楽しみにしています。

広報部　伊藤英典(東ブロック)

中ブロックミニ研修

古地図を片手に浜松城郭散歩

古地図から当時を想像してみる

10 月 28 日(月)、中ブロックの浜松城周辺を歩くミニ研修会に 24 名が参加しました。17 世紀後半の浜松城絵図を現代の地図と照らし合わせながら、当時の「城郭の様子」や「防御力を高めるための工夫」について確認し、考察をしていきました。

まず、浜松城には今は目にできない門が、主要とする門だけでも 13 基、他名前がない門も多数あったことが絵図から分かりました。櫓も計８基描かれており、他にもいくつか存在していたことが推定されているそうです。

枡形虎口もいくつかあり、目的としては横矢をかけること、城内の見通しを遮ることだったようです。丁度、市役所から浜松城へ上がっていくスロープ辺りは、古地図で見ると鉄門近くの枡形虎口にあたり、門を入ると三方を石垣で囲って、一段高くなった場所から侵攻してきた敵を攻撃できるようになっていました。説明を受けながら改めて想像してみると、枡形状の道筋も下垂口と曳馬坂に現存していることが確認できました。

土塀と柵は天守門の左右に一部のみ狭間付き土塀を復元し、それ以外は柵ですが、重要な場所には必ず設営されていたものらしいので天守曲輪、本丸、二の丸、西端城曲輪、清水曲輪、大手門などお客様を案内するときには全体を想像できるようお伝えできればと思いました。

また、浜松城にはほぼ城郭の外周を巡る空堀もあったことが分かっています。水堀も東側中心に絵図に描かれていました。

当時の浜松城の姿を推定しながら歩くと、堀の中を歩いている感覚になったり、塀があった場所では広さ狭さを感じたり、地図一つで見方が変わることがわかりました。これからの案内にうまく活かせるよう再度歩いてみたいと思いました。

中ブロック　久保田絢子

会員の交流広場

100 名城の新発田城と春日山城を巡る

11 月中旬に新潟県に行く機会があり、ついでに新潟県の日本 100 名城である新発田(しばた)城と春日山城を巡ってきました。

新発田城は JR 新発田駅から 2km 離れたところにあり、築城は慶長 3 年(1598)頃です。現在でも隙間なく積まれた美しい切込接布積の石垣が 350m 残っている平城です。初代新発田藩主溝口秀勝は豊臣秀吉の命により 6 万石を与えられ入封し、関ヶ原の戦いには徳川方に付いた外様大名です。外様でありながら江戸時代には一度も所替えなしで 12 代の溝口直正の時に明治維新を迎えました。

表門（2 階建ての櫓門）と旧二の丸隅櫓は江戸時代から現存していて国の重要文化財に指定されています。腰壁は瓦張りで白と黒の美しいなまこ壁で仕上げられています。平成 16 年に三階櫓と辰巳櫓が復元されました。

三匹の鯱（新発田城 三階櫓）

三階櫓は天守に相当する櫓ですが、幕府や親藩に遠慮して天守という名称は用いず「三階櫓」や「御三階櫓」と呼んだそうです。最上層の棟は丁字型でそれぞれの隅に 1 匹ずつ、合計 3 匹の鯱がのる全国でも唯一の珍しい櫓です。

表門の入り口に同じ鯱瓦が 2 基展示してあり、ボランティアガイドの方が「鯱にはオスとメスがあり、口をよく見ると牙の数が違いますよ」と説明してくれました。狛犬等と同じように口は「あ・うん」の形状ですが、どちらがオスメスなのか、見分方を聞きそびれました。

春日山城は上越市にある巨大な山城です。築城時期、築城者ともに不明ですが、越後守護代長尾為景が改修し、子の景虎（上杉謙信）により大規模に整備され、難攻不落の城が完成しました。石垣はなく、空堀や土塁などで多くの曲輪があり、家臣団屋敷も置かれ全山要塞化されています。標高 180m の山頂にある本丸と天守台からは越後府中（直江津）と周辺の山々の支城跡や日本海が一望できます。本丸の隣に大井戸があり、どんな渇水でも涸(か)れることがないとのことです。180m の山頂に現在でも水をたたえていて驚かされました。春日山城は引き継いだ堀秀治が慶長 12 年(1607)に直江津港近くに福島城を新築して移り、城としての使命を終えました。

ガイドの会に入会したことがきっかけで始めた「日本 100 名城スタンプラリー」は 2015 年 8 月に岡崎城からスタートして残すところ 14 城となりました。残りは北海道、九州、沖縄の遠方ですが、最終の 100 城目には「駿府城」を残してあります。目標の 100 名城を制覇するために、日々の健康維持と旅費捻出のために倹約を努めています。

西ブロック　春日康治

11 月のガイド活動　≪明く楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また この 3 カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜松城≫

10 日	土	和田自治会中央組	10 名
13 日	木	阪急交通社	35 名
		同上他 6 回	176 名
17 日	日	クラブツーリズム	40 名
		同上他 7 回	218 名
21 日	木	**浜松市立赤佐小学校**	65 名
		＊他 3 団体	12 名

≪浜松まつり会館≫

5 日	火	身障者協会　可児支部	44 名
7 日	木	**浜松市立中部学園小学校**	80 名
19 日	火	**浜松市立南の星小学校**	35 名
		浜松市立引佐北部中学校	7 名
		＊他 8 団体	293 名

≪犀ヶ崖資料館≫

21 日	木	**浜松市立赤佐小学校**	36 名
		浜松市立神久呂中学校	4 名
		＊他 4 団体	53 名

はまま つ案内人会報　269号

編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946　浜松市中央区元城町 100-2　(浜松城内)
TEL　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人　検索

浜松 家康公ゆかりの地